

準動詞とは、具体的には「不定詞」「動名詞」「分詞」の3つの品詞のことで、これらの総称です。準動詞は、動詞に -ing, -ed, to をつけることにより、以下のような機能(働き)、特徴(性質)を持ちます。

①元々動詞だったものが「名詞」「形容詞」「副詞」の働きをする。

(ex) Learning a language is difficult. ☞learnという動詞に-ingをつけることによって、主語
言語を学ぶことは難しい つまり「名詞」の働きをさせている。

I read an interesting story. ☞interestという動詞にingをつけることによ
ある面白い物語を読んだ て、名詞を修飾、つまり「形容詞」の働きをさせている。

I went to the U.S. to study it. ☞studyという動詞にtoをつけることによって、動
それを学ぶためにアメリカに行った (went)を修飾、つまり「副詞」の働きをさせている。

②数(単数・複数)・時制(現在・過去・未来)・人称(1~3人称)・法(直説法・仮定法)といったものに制約されない。つまり、時制や主語の数がどうであっても、形が変わらない。

(ex) I want to go there. ☞左の2つの英文のto go(不定詞)は、主節の動詞の時制が変わっても
I wanted to go there. to go のまま。主節の動詞(want, wanted)の時制と同じ「時(制)」を表している。

③準動詞は文の中で名詞・形容詞・副詞の働きをしながら、元々の動詞の性質も持っている(引きずっている)。

つまり、(純粋な「名詞」「形容詞」「副詞」にはありえない)以下のような動詞的な性格を持っている。

1.自身の「目的語」や「補語」をもつ。

(ex) I want to visit Japan someday. ☞to visit(不定詞)は、wantの目的語として機能
いつか日本に行きたい しながら、かつJapanという自身の目的語を持っている。

I want to be a teacher. ☞to be(不定詞)は、wantの目的語として機能しなが
教師になりたい ら、かつa teacherという自身の補語を持っている。

2.動作の主体(意味上の主語)をもつ。

(ex) I insisted on Kim going there. ☞going(動名詞)は、Kimという自身の意味上の主語を持つキムがそこに行くよう主張した っている。

3.副詞によって修飾される。

(ex) Talking loudly is not polite. ☞talking(動名詞)はloudly(副詞)によって修飾されている。
大声で話すのは礼儀正しくない

4.完了形や受身がある。

(ex) Being scolded is shameful. ☞being scolded(動名詞)は、scolding
叱られるのは恥ずかしい の受身形。

He seems to have been ill. ☞to have been ill は、to be ill
彼は病気だったみたいだ の完了形(完了不定詞)。

動名詞

レクチャー1

動名詞とは。

動名詞とは、動詞に「～ing」がついて、動詞の意味を残しながら名詞的な働きをするもののことを言います。

ですから、動名詞の文中での働き(機能)は名詞と同じです。つまり

①「主語(S)」、「目的語(O)」、「補語(C)」

②前置詞の目的語

☞「前置詞の目的語」とは、前置詞の後ろに置かれる名詞(の仲間)のことを指して言う。つまり動名詞は前置詞の後ろに置かれるということ。当たり前だが、前置詞の後ろには「名詞の仲間」しか来れない。不定詞にも「名詞用法」がある(つまり「名詞の仲間」として用いられることがある)が、不定詞の場合、前置詞の目的語にはなることができない。つまり「前置詞+to do[原形]～」という言い方はできない。

のいずれかになります。

☞「名詞+名詞」で、前の名詞が形容詞的に働くことがある。たとえば、health center。healthは「健康のための」という形容詞的な働

きをして(centerという後ろの名詞を修飾)している。

これと同じように、「動名詞+名詞」で、前の動名詞が形容詞的に働く(つまり後ろの名詞を修飾する)ことがある。たとえば、sleeping bag。これは「寝袋」という意味。ちなみに sleeping baby という場合の sleeping は現在分詞で「寝ている赤ちゃん」。この場合の、つまり「-ing+名詞」となる場合の-ingが動名詞なのか現在分詞なのかの見極め方は、「～のための」と-ingを訳せるなら動名詞、「～している」と訳せるなら現在分詞である。確かにsleeping bagは「寝るための袋」であり、sleepingは文字通り「寝ている赤ちゃん」だ。

そして動名詞は「～すること」と訳します。

(ex) Collecting stamps is my hobby.

S

切手を集めることは僕の趣味だ

I remember seeing him when I was a boy.

O

子供の頃彼に会ったことを覚えている

My job is cleaning the office.

C

私の仕事は事務所の掃除をすることです

He blamed me for being late for the meeting.

(前)

前置詞の目的語

彼は会議に遅れたことで私を責めた

會・(前)は「前置詞」のこと。

・blame A for B: 「Bの理由でAを責める」

また、動名詞を否定する場合、その直前に否定語(never, not等)を付けます。これは準動詞(不定詞・分詞・動名詞)全てに共通するルールです。

(ex) He suggested not going there.

彼はそこに行かないことを提案した

He pretended not to be listening.

彼は聞いていないふりをした

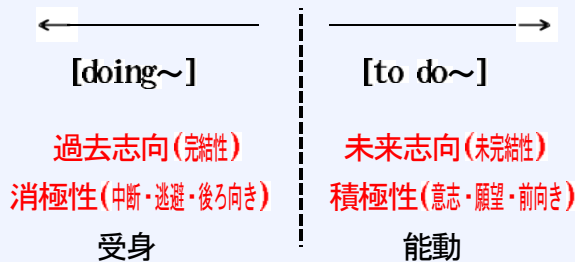
Not knowing what to say, he kept silent.

何を言っていないかわからなかったなので、彼は黙っていた

他動詞の目的語に関する不定詞と動名詞の注意事項。

(1)不定詞と動名詞の対照的な特徴。

不定詞(to do[原形]~)と動名詞(doing~)は、その性格が対照的です。簡単にまとめると、不定詞は左から右に向かったの矢印(→)、動名詞は右から左に向かったの矢印(←)で、その性格を表すことができます。



☞これとは別に「-ing=(その行為の真っ只中にいるという)躍動感」、「to do=(躍動感のない無機質な)一般論」というとらえ方もできる。

(2)不定詞だけを目的語にとる他動詞。

不定詞の最大の特徴は、上の図を見ても分かるように、

- ①「未来志向」
- ②「積極性」

です。したがってそのような性格を持つ不定詞を後ろに(目的語として)とる動詞には、(不定詞と)同じように未来に向かって何かをしようという、これまた「未来志向」「積極性」が感じられる動詞が多いのです(「類は共を呼ぶ」。同じ性質だから結びつく)。その(つまり「未来志向」「積極性」型の動詞の)3大代表選手が、「希望(~したい)」「意図(~するつもり)」「決心(~することに決める)」を表す動詞です。確かに、たとえば「大学に行きたい」「大学に行くつもりだ」「大学に行くことに決めた」といった場合、どれもまだ大学には実際には「行っていない」わけで、「行く」のはこれから先、つまり「未来」の話(こと)ですよね。そしてこれらの動詞には「積極的意志・願望」が感じられます。このような簡単な例からも、これらが「未来志向」「積極性」型の動詞であることがわかります。

では具体的に(不定詞を目的語にとる)「希望」「意図」「決心」を表す動詞の例をあげてみましょう。

①希望

hope「望む」 desire「したい」 wish「したい」 long「したい」 want「したい」 beg「懇願する」
care「否定文・疑問文でしたい」 ask「頼む」 claim「主張する」 demand「要求する」

②意図

plan「計画する」 expect「つもりだ」 fail「しない・できない」 vote「(投票で)支持する」
offer「申し出る」 pretend「ふりをする」 attempt「しようとする」 venture「あえて～する」
aim「つもりだ」 agree「同意する」 consent「同意する」 refuse「拒絶する」
vow「誓う」 undertake「ひき受ける」 swear「誓う」 guarantee「保証する」
promise「約束する」 seek「しようと努める」

③決心

decide「決心する」 determine「決心する」 resolve「決心する」 hesitate「ためらう」
choose「決める」

④イディオム・その他

◎can afford to do～ 「～する余裕がある」 ☞◎をつけたものは類出。
◎manage to do～ 「どうにか～する」
tend to do～ 「～しがちだ」「～する傾向にある」
learn to do～ 「～する(できる)ようになる」

(3)動名詞だけを目的語にとる他動詞。

不定詞が「未来志向」なら、動名詞は「過去志向」、あるいは「消極性」がその特徴なので、

- ①すでに起こったことや、当面の事柄にどう対処するかといった動詞
- ②やめたり、避けたりするような消極的な動詞

が動名詞を目的語にとることが多いのです。

ただ、それだけではなかなか容易に覚えきれないので、よく受験で出題されるものの頭文字をとって「**メガフェプスダリク(MEGAFEPSDARIC)**」と覚えるのも1つの方法です。

①「メガフェプスタリク (MEGAFEPSDARIC)」

Mind「気にする」「いやだ」 Miss「し損なう」 Mention「述べる」

Enjoy「楽しむ」

Give up「あきらめる」

Avoid「避ける」 Admit「認める」 Advise「忠告する」

Finish「終える」 Fancy「想像する」

Escape「逃れる」 Evade「避ける」 Excuse「許す」

Put off [Postpone]「延期する」 Practice「実行する」

Stop「やめる」 Suggest「提案する」

Deny「否定する」 Delay「遅らせる」 Detest「嫌う」 Defer「延期する」

Appreciate「感謝する」 Adore「熱愛する」

Risk「危険を冒して～する」 Resist「抵抗する」 Recommend「推薦する」 Report「報告する」 Recollect「回想する」

Imagine「想像する」 Involve「伴う」

Recall「思い出す」

Consider「熟考する」 Contemplate「～しようとする」 Complete「終える」

②その他

quit「～を辞める」 can't help「～せずにはいられない」

(4)目的語に不定詞をとった場合と動名詞をとった場合で意味が異なる他動詞。

①不定詞が未来を表わし、動名詞が過去を表わすもの。

以下に挙げた動詞は、不定詞を目的語に取った場合、「**未来**」の内容を表し、動名詞を目的語に取った場合、「**過去**」の内容を表します。◎の動詞は頻出です。

◎1.remember { to do～ 「～するのを覚えておく、忘れずに～する (**未来**) 」
doing～ 「～したことを覚えている (**過去**) 」

(ex) Remember to write to me when you get there.

そこに着いたら忘れずにお便りを下さいね

I remember seeing the picture somewhere before.

その絵を以前どこかで見たことがある

◎2.forget { to do～ 「～することを忘れる (**未来**) 」
doing～ 「～したことを忘れる (**過去**) 」

(ex) He has forgotten to pay back the money.

彼は金を返すのを忘れている

I'll never forget listening to his lecture.

彼の講演を聞いたことは決して忘れません

3.regret {
to do~ 「残念ながら~する (未来)」
doing~ 「~したことを後悔する (過去)」 ☞having+p.p.となることもある。

(ex) I regret to say that I cannot accept your offer.

残念ながらあなたの申し出をお受けできません

I regret telling a lie. 嘘をついたことを後悔しています

②不定詞が能動(～する)を表わし、動名詞が受身(～される)を表わすもの。

以下に挙げた動詞は、不定詞を目的語に取った場合、「能動(～する)」の内容を表し、動名詞を目的語に取った場合、「受身(～される)」の内容を表します。

◎の動詞は頻出です。

◎1.need {
to do~ 「~する必要がある (能動)」
doing~ 「~される必要がある (受身)」 =need[require] to be+p.p.~
=require doing~

(ex) You need to get up early tomorrow, don't you?

明日は早く起きなきゃいけないでしょう

This machine needs[requires] repairing.

=This machine needs[requires] to be repaired.

この機械は修理される(を受ける)必要がある

2.want {
to do~ 「~したい (能動)」
doing~ 「~される必要がある (受身)」 =need[require] doing~
=need[require] to be+p.p.

(ex) He wants to go abroad to study English.

彼は英語を学ぶために海外に行きたいと思っている

This flower wants watering. この花は水をまかれる必要がある

3. deserve {
to do~ 「~する価値がある (能動)」
doing~ 「~される価値がある (受身)」 =deserve to be+p.p.~

(ex) She deserves to succeed. 彼女なら成功してもおかしくない

A person who steals deserves punishing.

盗みを働くものは罰せられて当然だ

④ need doing~, require doing~, want doing~, deserve doing~ となる場合の doing つまり動名詞はすべて「受け身(~される)」の意味を表す。他に動名詞が受け身の意味を表す構文として「S is worth doing~: Sは~する価値がある」がある。これも受験では頻出だ。

(ex) This book is well worth reading.

この本は読む(読まれる)価値が十分ある

上の英文でも「本は読まれるものだから ~ worth being read だろう」などと考えるはいけない。worth の後ろの動名詞は受け身を表すので reading で「読まれる」という意味を表せるのだ(逆に being read は間違い)。もう1つ例を挙げておこう。

(ex) Paris is a city worth visiting.

パリは訪れる(訪れられる)価値のある都市である

③その他。

1. mean {
to do~ 「~するつもりだ」
doing~ 「~することを意味する、~ということになる」

(ex) I mean to call on you tomorrow. 明日あなたを訪ねるつもりです

That means running a risk. それは危険を冒すことを意味する

2. try {
to do~ 「~しようと(努力)する」 =seek to do~
doing~ 「試しに~してみる」

(ex) I always try to speak in English to improve my speaking ability.

私は英会話の力を伸ばすために常に英語で話すように努力しています

I tried climbing the hill. 私は試しにその丘に登ってみた

try の場合、「to do～ = 未来」「doing～ = 過去」の行為になることが多い。例えば以下の問題でもそれがヒントになる。

I (), but she pretended not to hear me.

- ① tried to talk to her
- ② tried talking to her

①の場合、(過去のその時点で)「彼女に話しかけようとした」ということは、その時点ではまだ彼女には、実際には話しかけていないことになる。②では、過去のその時点で(実際に)「彼女に話しかけてみた」ということ。空欄の後ろで「しかし彼女は聞こえないふりをした」という記述がある。実際に話しかけていなければ、「聞こえないふり」をするはずはない。したがって正解は②となるのである。

(5)目的語に不定詞、動名詞どちらをとってもあまり意味が変わらないもの。

これらは、文法問題に出題されることはあまりありません。

- ①「好き」「嫌い」…like, love, prefer, hate,
- ②「始める」「続ける」…begin, start, continue
- ③「しなくなる」…cease

レクチャー3

動名詞の意味上の主語。

英文中で、動名詞の前に「名詞」「目的格」「所有格」が付いていることがあります。この動名詞の前に付いた「名詞」「目的格」「所有格」と、直後の動名詞の間には「主語と述語(主が述する・される・になる・である)」の意味関係が成立しています。

「所有格」

「目的格」 +doing[動名詞]

「名詞」

(主)

(述)

(ex) his[him] coming: 彼が 来ること

(主) (述)

Nancy buying the bag: ナンシーが その鞆を 買うこと

(主)

(述)

この動名詞の前に付いた「名詞」「目的格」「所有格」のことを、(動名詞の)意味上の主語と呼びます。

この意味上の主語というのは、どんな場合にも付くというわけではありません。つまり付く場合と付かない場合があります。

(1)意味上の主語を明示する必要がない場合。

①文の主語と(動名詞の)意味上の主語が同じである場合。

(ex) I insisted on **going** there.

私は(自分が)そこに行くことを主張した

上の英文の動名詞(going)は、(「私」が「行く」わけで)意味上の主語は「私」で、文の主語も I つまり「私」です。このように「文の主語＝動名詞の意味上の主語」の場合は、動名詞の意味上の主語を英文中に明示する必要はありません。

②「一般の人」が(動名詞の)意味上の主語である場合や、意味上の主語が文脈から明らかな場合。

(ex) Seeing is believing. 見ることは信じること → 百聞は一見にしかず

上の英文の動名詞(seeing, believing)の意味上の主語は「一般の人(我々)」ですが、このような意味上の主語も、英文中に明示する必要はありません。以下は、意味上の主語が文脈から明白であるために明示されていない例です。

(ex) My hobby is collecting postage stamps.

私の趣味は切手を集めることです

上の英文の動名詞、collecting には意味上の主語がついていませんが、かといって文の主語(My hobby)が(隠れた)意味上の主語でもありません。意味上の主語はもちろん「私」です。

(2)意味上の主語を明示する必要がある場合。

それは文の主語と(動名詞の)意味上の主語が異なる場合です。

(ex) I insisted on his[him] going there.

私は、彼がそこに行くことを主張した

上の英文の動名詞、going には、今度は his[him] という意味上の主語が明示されています。「行く」のは「私(I)」ではなく「彼(his[him])」だからです。このような場合は、「彼が行くこと」としっかりその意味上の主語を和訳でも明示して訳さなければいけません。

(ex) I insisted on Jack paying for it.

私はジャックがその支払いをするよう主張した ④pay for A:「Aの代金を支払う」

上の英文の動名詞、paying も、Jack という意味上の主語がついている(「支払う」のは「私(I)」ではなく、「ジャック(Jack)」だから。)ので、和訳の際にはこれまた「ジャックが支払うこと」と、しっかりその意味上の主語を和訳でも明示しなければなりません。

レクチャー4

完了動名詞(having+p.p. ~)の用法。

文法用語で doing~ のことを「単純動名詞」、having+p.p.~ のことを「完了動名詞」と呼びます。「単純動名詞(doing~)」は、主節の動詞の時制と同じかそれより未来の内容を表します。

④「主節」とは(従位)接続詞・関係詞・疑問詞等が付いていない(裸の)S+Vのこと。

(ex) I am interested in writing music. 私は作曲することに興味がある

上の英文の writing~ は、主節の動詞(am[現在時制])と同じ時制、つまり現在の内容を表しています。

(ex) I am looking forward to seeing you again.

また会えることを楽しみにしています

上の英文の seeing you again は、主節の動詞(am[現在時制])よりも後、つまりこれから先の未来の内容を表しています。

このような「単純動名詞」に対して「完了動名詞(having+p.p. ~)」は、主節の動詞より時制が1つ昔であることを表します。

(ex) She is proud of having been a famous actress when she was young.

彼女は若いころ、有名な女優だったことを自慢に思っている

上の英文の having been は、主節の動詞(is[現在時制])よりも1つ前の時制、つまり過去の内容を表しています。したがって節で書き直した場合、以下のように過去時制で表されます。

=She is proud that she was a famous actress when she was young.

もちろん主節の動詞が過去時制の場合、その後ろの完了動名詞(having+p.p. ~)は、それより1つ昔、つまり大過去(過去完了)の内容を表すことになります。

ただし、remember, forget のようなある特定の動詞の後ろでは、単純動名詞(doing~)が主節の動詞よりも1つ前の時制を表すことがあります。

(ex) I remember visiting the temple before.

以前その寺を訪れたことを覚えている

上の英文の visiting は、主節の動詞(remember[現在時制])よりも1つ前の時制、つまり過去の内容を表しています。

レクチャー5

「to+doing~」の慣用表現。

to には「不定詞」の to と「前置詞」の to がありますね。その to が不定詞なら、直後は当然「動詞の原形」が来なくてはなりません、その to が前置詞なら「動名詞(名詞・代名詞等)」が来なくてはなりません。

① to[不定詞] + 動詞の原形

前置詞の後ろに来るのは「名詞の仲間」だけだから。

② to[前置詞] + 名詞の仲間(名詞・代名詞・動名詞等)

このうち、「(前置詞)to+doing～」で慣用的に使われる表現は受験では超頻出です。

①be[get] used to doing～ 「～することに慣れている[慣れる]」
=be[get] accustomed to doing～

(ex) I'm used to getting up early.

僕は早起きすることに慣れている

愈ちなみに「used to do～」は「(昔)よく～したものだ」で過去の習慣を表す。

(ex) I used to get up early when young.

若いころは早起きをしたものだった

②look forward to doing～ 「～することを楽しみにする(待つ)」

(ex) I'm looking forward to going abroad for study next year.

私は来年留学することを楽しみにしています

③what do you say to doing～? 「～したらいかがですか」 [勧誘・提案]

(ex) What do you say to taking a bath before you take supper.

夕飯前にお風呂に入られたらどうです

④devote[dedicate] oneself to doing～ 「～することに専念する」

(ex) He's devoting himself to spending his father's money.

彼は父親の金をせっせと使っている

It is wrong to devote yourself only to amusement.

楽しみだけにふけるのは間違っている

⑤with a view to doing～ 「～するために」 (目的)

=with the view of doing～

(ex) He works hard with a view to gaining a scholarship[奨学金].

彼は奨学金を獲得するつもりで一生懸命勉強している

愈同じ「～するために」でも、in order to の to は不定詞。直後には動詞の原形が来る。

(ex) I went there in order to meet him.

彼に会うために私はそこに行った

⑥object to doing~ 「~することに反対する」

(ex) I object to carrying out the plan.
私はその計画を実行することに反対だ

⑦when it comes to doing~ 「~することになると」

(ex) When it comes to eating, he is a very different person.
食べることになると、彼は別人のようになる

レクチャー6

動名詞を用いた慣用表現。

(1)There is no doing~ 「~できない」

=It is impossible to do[彫]~

(ex) There is no denying the fact that you told a lie to us.
君が我々に嘘をついたという事実は否定できない

(2)It is no use[good] doing~ 「~しても無駄だ」

=There is no point[sense] (in) doing~

=No point[sense] (in) doing

=What is the use of doing~?

(ex) It is no use crying over spilt milk.
こぼれたミルクを嘆いても仕方がない ☞ 覆水盆に返らず

(3)never[cannot]~without doing... 「~すれば必ず…する」

(ex) My father never goes out without leaving his umbrella in the train.
私の父は外出すれば必ず列車に傘を忘れてくる

(4)of one's own doing 「自分自身で~した」

(ex) The cake is delicious and it is of her own making.
そのケーキは美味しいんですが、それは彼女が自分で作ったものなのです

(5) A is worth doing~ 「Aは~する価値がある」

=It is worth (while) doing[to do] A

(ex) The city is worth visiting. その街は訪れてみる価値がある

=It is worth (while) visiting the city.

=It is worth (while) to visit the city.

(6) spend A(金・時間) (in) doing~ 「~することにAを費やす」

(ex) Nancy spent a lot of money (in) travelling.

ナンシーは旅行に多額の金を使った

⚠ 「spend A(金・時間) on B(物) : BにAを費やす」という spend の語法も一緒におさえよう。

(ex) He spends a lot of money on books.

彼は本にたくさんの金を使う

(7) feel like doing~ 「~したい気がする」

(ex) I was so tired that I felt like going to bed soon.

私はとても疲れていたのですぐに寝たい気がした

(8) in doing~ 「~する場合には」

(ex) In crossing the street, be careful.

通りを渡る際には気をつけなさい

(9) on doing~ 1. 「~するや否や」

=as soon as S+V~

2. 「~する時」

(ex) On seeing me, he ran away. 私を見るとすぐ、彼は逃げた

(10) be busy (in) doing~ 「~するのに忙しい」

(ex) My mother is busy gardening in the yard.

私の母は庭作りに忙しい

(11) go doing~

「~しに行く」

④ 「doing」の部分には「スポーツ・気晴らし」に関する(移動を表す)動詞が入る。

(ex) go fishing/ boating/ camping/ sightseeing/ dancing/ walking/ riding
shooting/ hunting等

「釣りに行く」「ボートに乗る」「キャンプに行く」「見物をする」「ダンスに行く」「散歩に行く」「乗馬に出かける」「狩猟に行く」「狩りに行く」

(12) can not help doing~

「~せずにはいられない」

=can not but do[原形]~

(ex) I cannot help watching the TV program every Wednesday evening.

毎週水曜日の夜はそのテレビ番組を見ずにはいられない

(13) be on the point of doing~

「まさに~しようとしている」

(ex) He was on the point of carrying out his plan at the time.

彼はその時(まさに)自らの計画を実行しようとしていた

(14) prevent A from doing~

「Aが~するのを妨げる」

[keep]

[stop]

[hinder]

(ex) A sudden snowstorm prevented us from coming on time.

突然の吹雪が我々が時間どおりに来ることを妨げた

☞ 突然の吹雪のために我々は時間どおり来れなかった

(15) How about doing~?

「~してはいかがですか」

=What about doing~?

「~しませんか」

=What do you say to doing~?

(ex) How about going out for dinner? 夕食に出かけませんか

(16) It goes without saying that~

「~は言うまでもない」

=Needless to say,~

(ex) It goes without saying that he is used to speaking English.

彼が英会話に慣れていることは言うまでもない

(17) be in the habit of doing~ 「~する癖がある」

=have a[the] habit of doing~

(ex) I'm in the habit of speaking ill of others.

僕は他人の悪口を言う癖がある

(18) make a habit[rule/ point/ practice] of doing~ 「~することになっている」

=make it a habit[rule/ point/ practice] to do[原形]~

(ex) I make a habit of reading a paper when having breakfast.

=I make it a rule to read a paper when having breakfast.

朝食を食べるときに新聞を読むことにしている

(19) have trouble[difficulty] (in) doing~ 「~するのに苦労する」

(ex) I had a lot of trouble[difficulty] reading that book.

私はあの本を読むのに大変苦労した